

# 米中会談 識者の目

米国のプリンケン国務長  
官が中国を訪問し、北京で習  
近平国家主席らと会談した。  
米中両政府の狙いや今後の展  
望について、米国と日本の識  
者に聞いた。

〈本文記事1面〉

プリンケン氏の今回の訪  
中には、中国と対話できる  
関係を再構築するための糸  
口にするという意図がある  
だろう。意思疎通ができな  
い状態が続けば、偶発的な  
衝突が起きかねず、米政府  
の危機感は強かった。

国防当局間の対話ができ  
ない状況で、米国政府とし  
ては中国側との対話の機会

東大准教授

佐橋亮氏

(国際政治)



## 対話の関係再構築

を欲していたと言える。ウ  
クライナ侵略を続けるロシ  
アに接近しないように、く  
ぎを刺す必要もあった。

中国側には、先端半導体

関連の対中輸出規制などの

緩和につなげたいという思  
感がある。習近平国家主席  
が11月に米サンフランシス  
コで開かれるアジア太平洋

経済協力会議(APEC)

首脳会議に出席すれば、国

内に外交実績を示すことに  
つながる。プリンケン氏と  
会談したのは、そのための  
環境整備という面もある。

今回の訪中を契機に、経

済分野で米中対話が進む可

能性はある。だが、米国の  
長期戦略は、国際経済にお  
ける中国の影響力を弱めて  
いこうというもので、経済  
規制で容易には譲歩しない  
だろう。中国も台湾問題で  
は強硬姿勢を崩さない構え  
で、今回の会談が根本的な  
関係改善につながるかは不  
透明だ。

(国際部 井戸田崇志)